

報 告 書

未来の柏の図書館について語り合おう！（5）

高柳コミュニティカフェ「茶論」

平成30（2018）年10月9日（火）

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）

1. 基本情報

1.1. 開催日時

平成 30 (2018) 年 10 月 9 日 (火) 14:00~16:00

1.2. 会場

高柳コミュニティカフェ「茶論」(柏市高柳 1652-1)

1.3. 参加者数

参加者 : 8 名

1.4. 事務局

生涯学習課

高村課長、橋本副参事、柳川副主幹、川本主任

図書館

利光副主幹

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

下吹越、宮田、島津

2. プログラム

プログラムは以下の通りです。

時間	内容
14:00~14:05 (05分)	趣旨説明、本日の流れ
14:05~14:15 (10分)	自己紹介
14:15~14:50 (35分)	ワークショップ#1 図書館への期待と課題
14:50~15:00 (10分)	休憩
15:00~15:40 (40分)	ワークショップ#2 図書館の可能性 (地域 x 図書館 x 子ども)
15:40~15:55 (15分)	グループ発表 (3分 x 2グループ) とまとめ
15:55~16:00 (05分)	閉会の挨拶と事務連絡 (今後の予定等)

3. ワークショップ

3.1. 図書館への期待

- ・ 語り合いや対話ができる場所
- ・ 紙の本だけでなく CD や映像もある図書館
- ・ これからの本がどうなるのか、未来の本も図書館で体験したい
- ・ 外出困難な人には個別に配本を行ってほしい
- ・ 流通は課題かもしれないが、市民ボランティアもいるし、コストが見合えば宅配便を使ってもよい。ドローンで効率的に個別に本を届けられる時代もそこまで来ている
- ・ AI（人工知能）が利用者にあった本を紹介してくれるようになってほしい。本の紹介は人でなくてもよい
- ・ 周りの人とおしゃべりができて、気楽に過ごせる場所になってほしい
- ・ ふらっと入りたくなるような、快適だと感じてもらえるような場所となってほしい
- ・ 地域コミュニティを活かし、地域に必要とされるような複合的な要素が必要
- ・ 語り部の人の話を聞ける場所があるといい
- ・ 個人では集められないような資料を集めてほしい（地域の昔の写真・航空写真等）
- ・ 本の青空市やフリーマーケットを開催してもらいたい
- ・ 夏休みの宿題でミシンを使うことがあるので、貸してほしい
- ・ 日常でたまに必要となる道具（芝刈り機等）を貸してほしい
- ・ 地域のボランティア活動を支えるような設備・備品を揃えて貸出してほしい

3.2. 図書館の課題

- ・ 地域資料が分館ごとに分散していて、すぐにすべてを調べられない。他の分館に出向いたり、取り寄せたりするには時間がかかる
- ・ ほしい本は瞬間的にほしいものなので、数日間も待ってられない
- ・ 分館が 18 館もあると知らなかった。3 館しかないと思っていた
- ・ 地域の学校や学校図書館と連携することで、本の購入をもっと効率化できないか。市立図書館で予約待ちだった話題の本が、学校図書館では貸出されずにずっと残っていた例がある
- ・ 分館や学校図書館との連携には、流通が課題になるだろう
- ・ 特に分館は図書館ではなく書庫となっている
- ・ 広さ的な問題がある
- ・ 図書館にほしい本がない
- ・ 図書館の本の並べ方は複雑で探しづらい

- ・ 将来の本は IT 化するのでは。読書離れとパソコン化が進んでいる状況に図書館は対応できているか
- ・ 現在の機能のままの図書館であれば、この先の時代には不要となる
- ・ IT 化に対応して司書の役割が広がっている
- ・ 自分がほしい情報は自分でインターネット検索して探せてしまう
- ・ パソコンを使った本の予約の操作が難しいので、シニア向けのサポートが必要
- ・ 地域のシニア向けに本のおすすめや紹介をもっとしてほしい
- ・ リサイクル本を配布するだけでなく、内容についても知らせてほしい
- ・ 子どもが一人で入れるような雰囲気ではない
- ・ 立地が悪く、交通手段も限られている
- ・ 複本問題の解決

3.3. 図書館の可能性（地域 x 図書館 x 子ども）

- ・ 地域資料が収集されていると、地域の文化や歴史を調べることができ、どんな事業がその地域にあっているか検討できる
- ・ 高柳の分館から沼南のこども図書館まで、分館をめぐるバスツアーがあれば、移動中にシニアと子どもたちの交流もできる
- ・ 子どもたちの将来や仕事について考える場として図書館を位置付けてはどうか
- ・ 小中学校では読み聞かせだけでなく、本について語り合う場もつくれるとよい
- ・ 学校や学校図書館でもっと PR をしてはどうか
- ・ 子どもの集まる児童館等に本を置いていくとよい
- ・ 地域でも図書館まつりをすれば、世代を超えた人たちが一度に集まるのではないか
- ・ 低学年の子や未就学児はお母さんと来るので、母親がアクセスしやすい場所にあることが大切。駐車場は必須
- ・ 子どもたちの居場所として何ができるかは難しい課題。近隣センターで子どもたちが集まっても、実際にはそれぞれスマホに集中している
- ・ 何らかの仕掛けや魅力が必要だがそれが何かはわからない
- ・ 子どもであっても、人を惹きつけるのは、人の魅力ではないか
- ・ いまの子育て世代や子どもたちは、とにかく忙しいので、コミュニティカフェや土曜ひろばにも、だんだんと子どもが集まらなくなっている。同じ講座ばかりで子どもが飽きてしまっている可能性もあるので、これまでとは違う形で多世代交流ができるアイデアを図書館から提供してもらえるとよい。たとえば、ロボット教室等をやったときは、子どもたちもよく集まってきてくれた
- ・ いまの子どもたちは、テレビやインターネット、ゲームに時間をとられている。大人も一緒に楽しめるような機会や場所があるといい。子どもと大人と一緒にできることを

探していけるといい

- ・ 地元の各学校の図書室と連携できないか



以上